

富山県内の中小企業動向調査

ファーストTrend

2023年1月号

中小企業動向調査（2022年12月末日基準）

この調査は、富山県内企業328社からのアンケート結果をまとめたものです。
 企業の調査資料として、2022年10月～12月の実績、2023年1月～3月の見込み、2023年4月～6月の先行き見通しを集約した概要です。なお、季節調整は行っていません。

回答企業数（調査企業数）
328（646）
うち、製造業106社、非製造業222社

調査時期：2023年1月

方法：インターネットによる当行取引先へのアンケート実施

日本銀行富山事務所が2023年2月に公表した「富山県金融経済クォーターリー2023年冬」によると、「富山県の景気は、基調としては持ち直している～（抜粋）個人消費は引続き持ち直しの動きがみられている。当地製造業の生産は、持ち直しの動きが一服している。業種別にみると、電気機械は減少している。医薬品を中心とする化学は、横ばい圏内の動きとなっている。一方、汎用・生産用・業務用機械は増加している。金属製品は、持ち直しの動きがみられている」とあります。今回実施したアンケートにおいては、企業動向は、製造業、非製造業とも改善の動きがみられます。しかしながら2023年1月以降の予想については、製造業、非製造業とも悪化傾向が続く見通しとなっています。

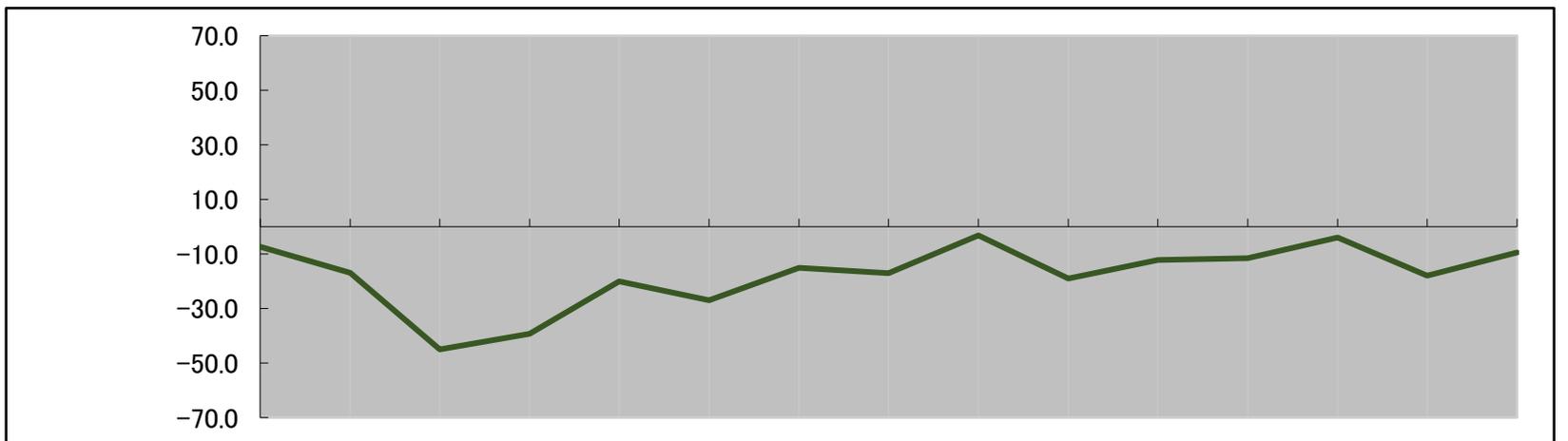
I. 企業業況

企業業況の推移……（全産業）

（%）

見込 予測

種別	期別	2019				2020				2021				2022				2023	
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	見込	予測	
良	い	14.8	15.0	9.1	11.8	16.8	14.1	17.3	15.4	22.0	17.4	17.2	16.3	22.6	12.2	12.5			
普	通	63.1	53.1	36.8	37.1	46.4	44.8	50.4	52.1	52.8	46.2	53.5	55.8	50.9	57.6	65.5			
悪	い	22.1	31.9	54.1	51.1	36.8	41.1	32.4	32.5	25.2	36.4	29.4	27.9	26.5	30.2	22.0			
D . I .		-7.4	-16.9	-45.0	-39.2	-20.0	-27.0	-15.1	-17.1	-3.2	-19.0	-12.2	-11.6	-4.0	-18.0	-9.5			



- (1) 富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い-悪い」は、今回調査の10-12月期ではマイナス4.0となり、前回より7.6ポイント改善しました。先行きについては、1-3月はマイナス18.0と大幅に悪化の見通しで、4-6月も悪化傾向が続く予測です。

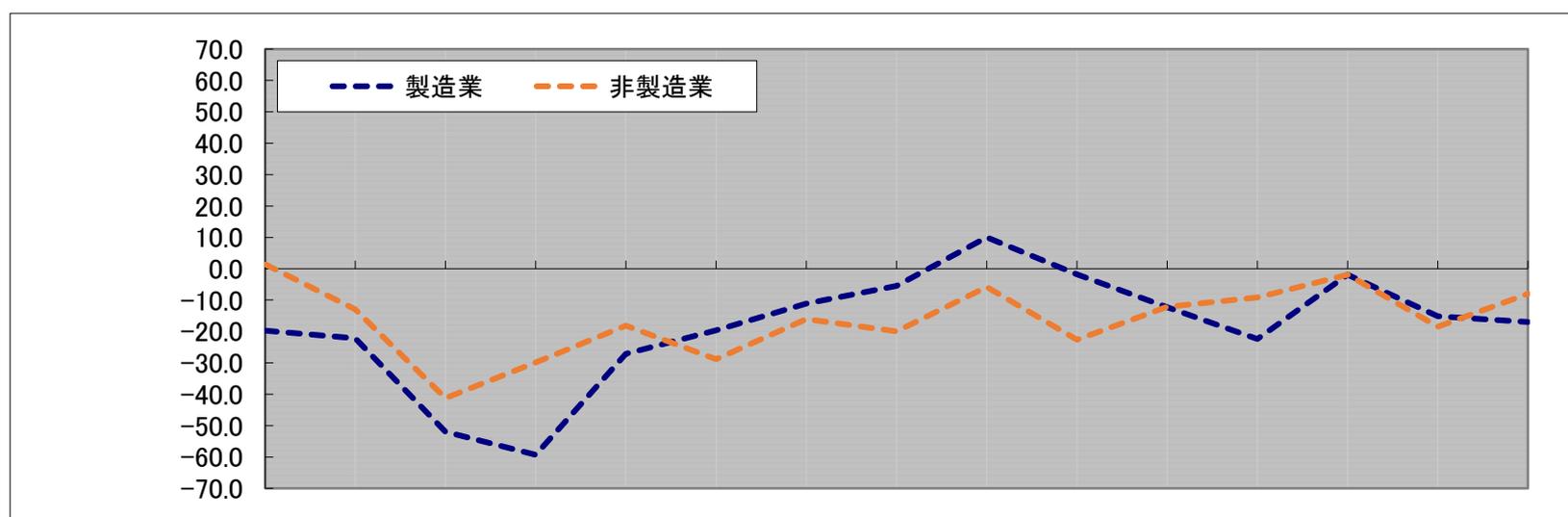
I. 企業業況（続き）

企業業況の推移……（うち製造業のみ）

		（%）														見込	予測
		2019	2020				2021				2022				2023		
		10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	
良	い	11.9	13.9	7.8	8.5	20.3	17.6	20.4	23.6	36.7	30.9	24.6	15.5	26.4	18.9	15.1	
普	通	56.4	50.0	32.5	23.7	32.2	45.1	48.1	47.3	36.7	36.4	38.6	46.6	45.3	47.2	52.8	
悪	い	31.7	36.1	59.7	67.8	47.5	37.3	31.5	29.1	26.7	32.7	36.8	37.9	28.3	34.0	32.1	
D .	I .	-19.8	-22.2	-51.9	-59.3	-27.1	-19.6	-11.1	-5.5	10.0	-1.8	-12.3	-22.4	-1.9	-15.1	-17.0	

企業業況の推移……（うち非製造業のみ）

		（%）														見込	予測
		2019	2020				2021				2022				2023		
		10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	
良	い	16.8	15.8	9.8	13.4	15.8	13.2	16.5	13.3	19.2	14.6	15.7	16.5	21.8	10.9	12.0	
普	通	67.8	55.5	39.2	43.3	50.2	44.7	50.9	53.3	55.9	48.3	56.4	57.9	52.0	59.6	68.0	
悪	い	15.4	28.8	51.0	43.3	33.9	42.1	32.6	33.3	24.9	37.2	27.9	25.7	26.2	29.5	20.0	
D .	I .	1.4	-13.0	-41.3	-29.9	-18.1	-28.9	-16.1	-20.0	-5.8	-22.6	-12.2	-9.2	-1.9	-18.5	-8.0	



- (2) 製造業と非製造業に分けてみると、製造業は業況判断指数D.I.は マイナス1.9となり、前回より20.5ポイント改善しました。非製造業ではマイナス1.9となり、前回より7.3ポイント改善しました。製造業では2022年10-12月に一旦改善しましたが先行きは悪化する予想となっており、非製造業も同様の傾向となる見通しです。

II. 売上高状況

売上高状況の推移……（全産業）

(%)

見込 予測

	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増加	18.6	15.3	10.0	14.0	20.0	17.7	24.6	20.0	28.4	16.8	27.6	25.7	27.7	16.2	16.5
横ばい	52.5	49.4	29.5	29.0	36.8	38.7	46.0	47.5	45.3	49.1	47.7	50.8	50.0	57.6	63.4
減少	28.9	35.3	60.5	57.0	43.2	43.5	29.4	32.5	26.3	34.2	24.7	23.5	22.3	26.2	20.1
D . I .	-10.3	-20.0	-50.5	-43.0	-23.2	-25.8	-4.8	-12.5	2.1	-17.4	2.9	2.2	5.5	-10.1	-3.7

売上高状況の推移……（うち製造業のみ）

(%)

見込 予測

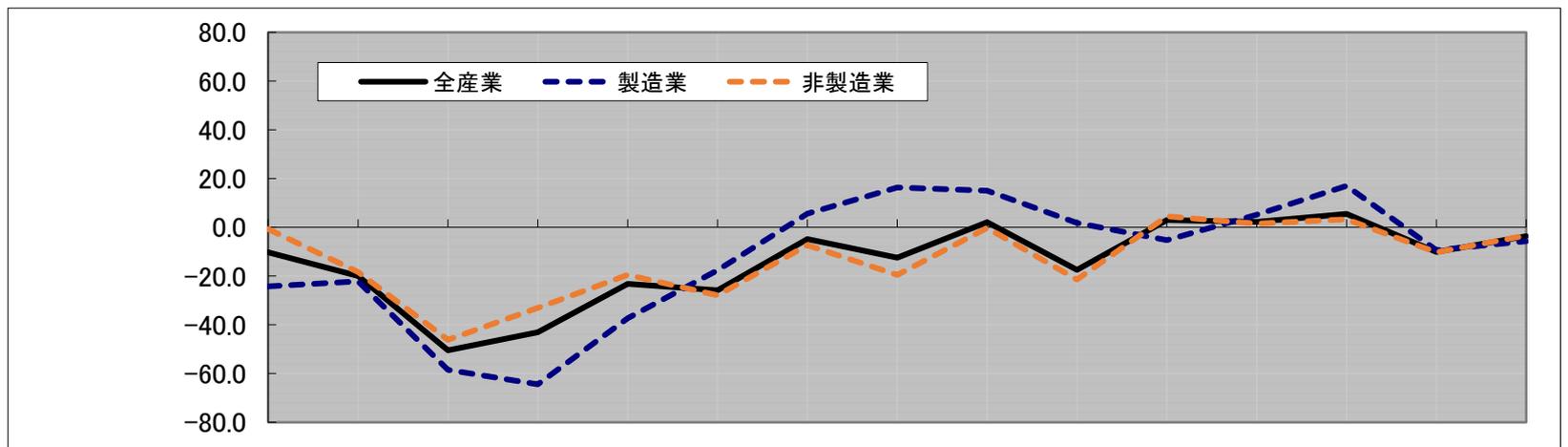
	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増加	16.2	16.7	7.8	5.1	15.3	23.5	29.6	30.9	40.0	27.3	24.6	32.8	37.7	20.8	18.9
横ばい	43.4	44.4	26.0	25.4	32.2	35.3	46.3	54.5	35.0	47.3	45.6	39.7	41.5	49.1	56.6
減少	40.4	38.9	66.2	69.5	52.5	41.2	24.1	14.5	25.0	25.5	29.8	27.6	20.8	30.2	24.5
D . I .	-24.2	-22.2	-58.4	-64.4	-37.3	-17.6	5.6	16.4	15.0	1.8	-5.3	5.2	17.0	-9.4	-5.7

売上高状況の推移……（うち非製造業のみ）

(%)

見込 予測

	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増加	20.3	14.3	11.2	18.1	21.3	16.2	23.4	17.3	26.2	14.6	28.2	24.1	25.8	15.3	16.0
横ばい	58.7	53.1	31.5	30.7	38.0	39.6	45.9	45.8	47.3	49.4	48.1	53.3	51.6	59.3	64.7
減少	21.0	32.7	57.3	51.2	40.7	44.2	30.7	36.9	26.5	36.0	23.7	22.6	22.5	25.5	19.3
D . I .	-0.7	-18.4	-46.2	-33.1	-19.5	-27.9	-7.3	-19.6	-0.3	-21.5	4.5	1.5	3.3	-10.2	-3.3



- (1) 売上高D. I. は全産業ではプラス5.5となり、前回より3.3ポイント改善しました。製造業と非製造業に分けてみると、製造業ではプラス17.0となり、前回比で11.8ポイント大幅に改善しました。非製造業はプラス3.3となり、前回比で1.8ポイント改善しました。先行きについては、全産業において1-3月にマイナス10.1と大幅悪化する予想です。

Ⅲ. 製品在庫水準

製品在庫水準の推移……（全産業）

(%)

見込 予測

	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
不足	2.8	3.1	9.1	7.5	7.9	8.5	10.3	12.1	12.3	13.3	13.1	13.2	11.0	10.4	9.8
適正	88.1	88.1	80.9	81.2	86.1	84.3	83.5	82.1	84.2	82.0	82.3	81.2	84.1	84.5	86.0
過剰	9.2	8.8	10.0	11.3	6.1	7.3	6.3	5.7	3.5	4.7	4.7	5.6	4.9	5.2	4.3
D . I .	-6.4	-5.8	-0.9	-3.8	1.8	1.2	4.0	6.4	8.8	8.5	8.4	7.5	6.1	5.2	5.5

製品在庫水準の推移……（うち製造業のみ）

(%)

見込 予測

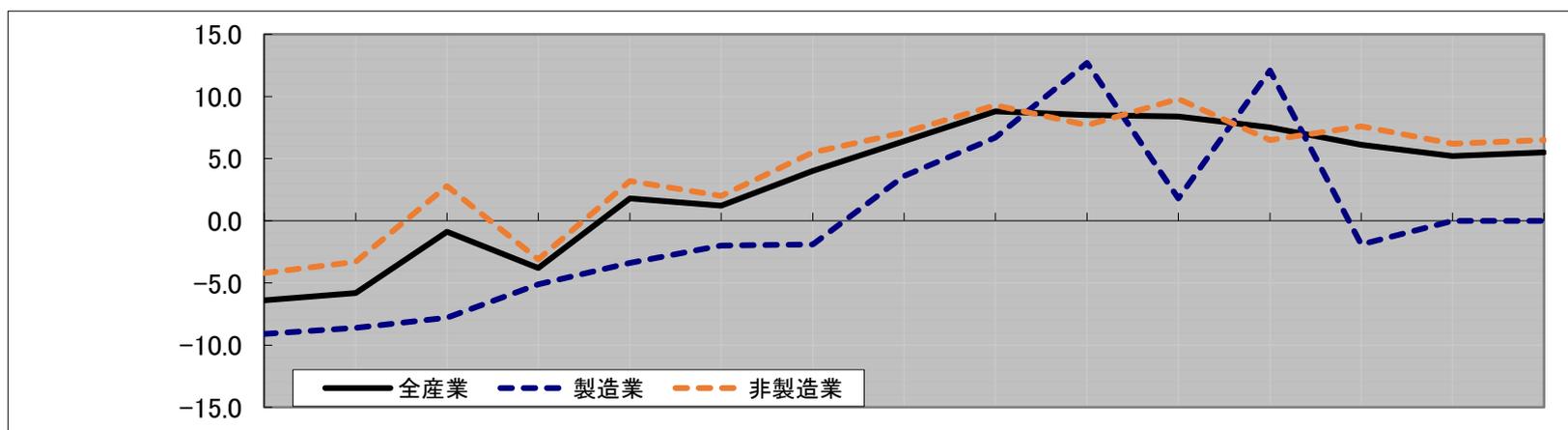
	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
不足	3.0	1.9	5.2	5.1	5.1	7.8	7.4	12.7	10.0	16.4	10.5	19.0	11.3	11.3	9.4
適正	84.8	87.6	81.8	84.7	86.4	82.4	83.3	78.2	86.7	80.0	80.7	74.1	75.5	77.4	81.1
過剰	12.1	10.5	13.0	10.2	8.5	9.8	9.3	9.1	3.3	3.6	8.8	6.9	13.2	11.3	9.4
D . I .	-9.1	-8.6	-7.8	-5.1	-3.4	-2.0	-1.9	3.6	6.7	12.7	1.8	12.1	-1.9	0.0	0.0

製品在庫水準の推移……（うち非製造業のみ）

(%)

見込 予測

	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
不足	2.5	4.1	11.2	8.7	8.6	8.6	11.0	12.0	12.8	12.6	13.6	11.9	10.9	10.2	9.8
適正	90.8	88.4	80.4	79.5	86.0	84.8	83.5	83.1	83.7	82.4	82.6	82.8	85.8	85.8	86.9
過剰	6.7	7.4	8.4	11.8	5.4	6.6	5.5	4.9	3.5	5.0	3.8	5.4	3.3	4.0	3.3
D . I .	-4.2	-3.3	2.8	-3.1	3.2	2.0	5.5	7.1	9.3	7.7	9.8	6.5	7.6	6.2	6.5



- (1) 10-12月の製品在庫水準D. I. はプラス6.1と在庫不足の状況は続いています。2020年10-12月からの上昇傾向は弱まりましたが、在庫不足の状況には変化ありません。製造業はマイナス1.9と前回より14.0ポイント下降しました。非製造業はプラス7.6と前回より1.1ポイント上昇しました。

IV. 資金繰り状況

資金繰り状況の推移……（全産業）

(%)

	2019					2020					2021					2022					見込		予測	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	2023	2023															
ゆるい	11.5	8.3	14.1	15.1	13.2	13.3	14.0	16.8	13.4	15.8	16.9	15.0	14.9	13.7	10.7									
普通	76.6	81.5	66.4	64.5	70.4	67.3	68.8	66.8	70.8	65.2	68.3	70.2	68.6	66.2	70.1									
厳しい	11.9	10.2	19.5	20.4	16.4	19.4	17.3	16.4	15.8	19.0	14.8	14.7	16.5	20.1	19.2									
D . I .	-0.4	-2.0	-5.5	-5.4	-3.2	-6.0	-3.3	0.4	-2.4	-3.2	2.0	0.3	-1.5	-6.4	-8.5									

資金繰り状況の推移……（うち製造業のみ）

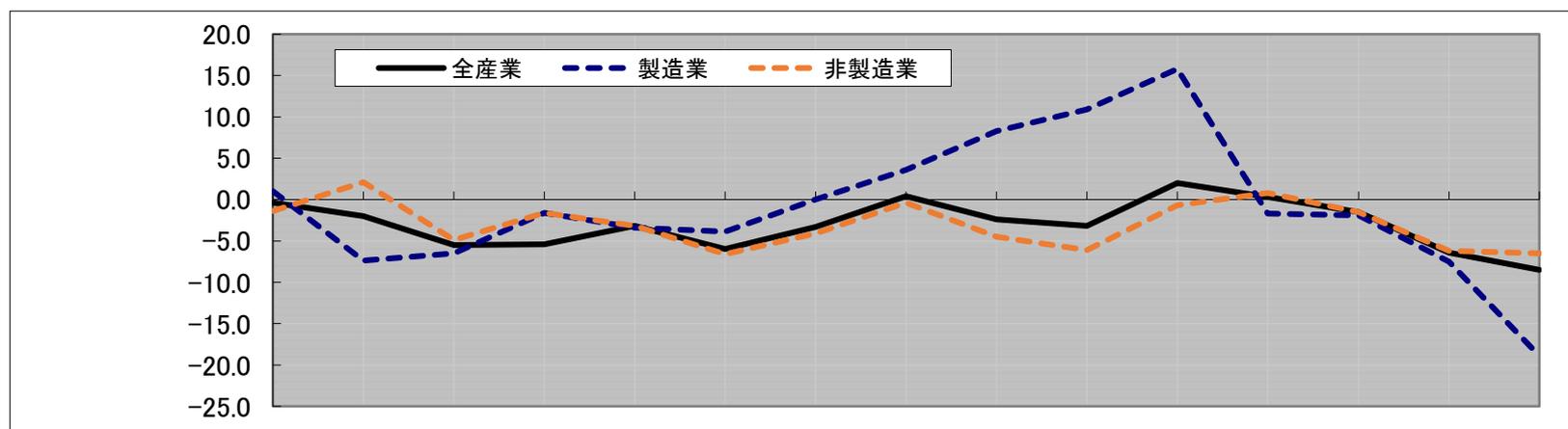
(%)

	2019					2020					2021					2022					見込		予測	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	2023	2023			
ゆるい	13.9	7.4	15.6	6.8	15.3	11.8	14.8	18.2	20.0	21.8	21.1	12.1	7.5	9.4	3.8									
普通	73.3	77.8	62.3	72.9	66.1	72.5	70.4	67.3	68.3	67.3	73.7	74.1	83.0	73.6	73.6									
厳しい	12.9	14.8	22.1	20.3	18.6	15.7	14.8	14.5	11.7	10.9	5.3	13.8	9.4	17.0	22.6									
D . I .	1.0	-7.4	-6.5	-1.6	-3.4	-3.9	0.0	3.6	8.3	10.9	15.8	-1.7	-1.9	-7.5	-18.9									

資金繰り状況の推移……（うち非製造業のみ）

(%)

	2019					2020					2021					2022					見込		予測	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	2023	2023															
ゆるい	9.8	8.9	13.3	18.9	12.7	13.7	13.8	16.4	12.1	14.6	16.0	15.7	16.4	14.5	12.0									
普通	79.0	84.2	68.5	60.6	71.5	66.0	68.3	66.7	71.2	64.8	67.2	69.3	65.8	64.7	69.5									
厳しい	11.2	6.8	18.2	20.5	15.8	20.3	17.9	16.9	16.6	20.7	16.7	14.9	17.8	20.7	18.5									
D . I .	-1.4	2.1	-4.9	-1.6	-3.2	-6.6	-4.1	-0.4	-4.5	-6.1	-0.7	0.8	-1.5	-6.2	-6.5									



- (1) 10-12月の資金繰り状況D. I. は全産業で1.8ポイント悪化しています。製造業は0.2ポイント悪化のマイナス1.9ポイントで連続マイナス域。非製造業も2.3ポイント悪化のマイナス1.5と、再びマイナス域に陥っています。1-3月、4-6月の資金繰り状況の見通しは全産業で悪化が継続する予想となっています。非製造業が引き続きマイナス域で悪化に転じるのに加えて、改善基調を維持してきた製造業が再び悪化に転じる予想となっています。

V. 利益状況

利益状況の推移…… (全産業)

(%)

見込 予測

	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
黒字	45.9	43.1	33.6	33.9	44.6	31.5	34.2	38.6	42.9	36.7	34.6	35.4	42.4	30.5	33.8
収支トントン	40.1	32.8	28.6	31.7	27.9	33.1	34.9	31.4	33.2	29.4	41.6	39.5	31.1	43.9	47.3
償却後赤字	14.0	24.1	37.7	34.4	27.5	35.5	30.9	30.0	23.9	33.9	23.8	25.1	26.5	25.6	18.9
D . I .	31.8	19.0	-4.1	-0.5	17.1	-4.0	3.3	8.6	19.0	2.8	10.8	10.3	15.9	4.9	14.9

利益状況の推移…… (うち製造業のみ)

(%)

見込 予測

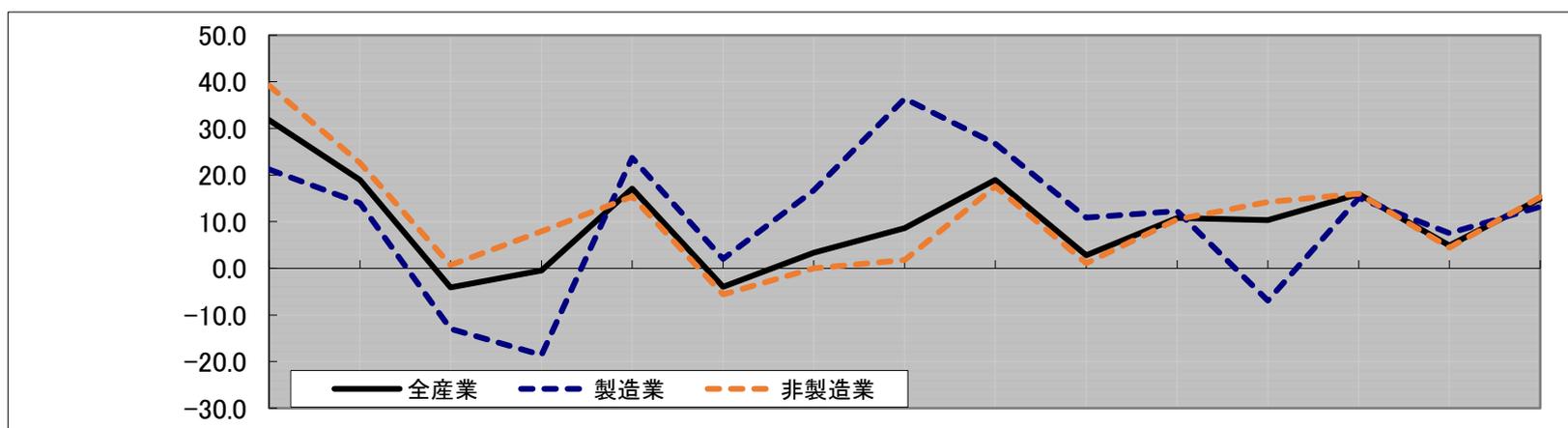
	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
黒字	38.4	44.9	32.5	25.4	54.2	39.2	42.6	54.5	55.0	41.8	38.6	29.3	41.5	32.1	34.0
収支トントン	44.4	24.3	22.1	30.5	15.3	23.5	31.5	27.3	16.7	27.3	35.1	34.5	32.1	43.4	45.3
償却後赤字	17.2	30.8	45.5	44.1	30.5	37.3	25.9	18.2	28.3	30.9	26.3	36.2	26.4	24.5	20.8
D . I .	21.2	14.0	-13.0	-18.6	23.7	2.0	16.7	36.4	26.7	10.9	12.3	-6.9	15.1	7.5	13.2

利益状況の推移…… (うち非製造業のみ)

(%)

見込 予測

	2019	2020				2021				2022				2023	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
黒字	51.0	41.8	34.3	37.8	42.1	29.4	32.1	34.7	40.6	35.6	33.8	36.8	42.5	30.2	33.8
収支トントン	37.1	39.0	32.2	32.3	31.2	35.5	35.8	32.4	36.4	29.9	42.9	40.6	30.9	44.0	47.6
償却後赤字	11.9	19.2	33.6	29.9	26.7	35.0	32.1	32.9	23.0	34.5	23.3	22.6	26.5	25.8	18.5
D . I .	39.2	22.6	0.7	7.9	15.4	-5.6	0.0	1.8	17.6	1.1	10.5	14.2	16.0	4.4	15.3

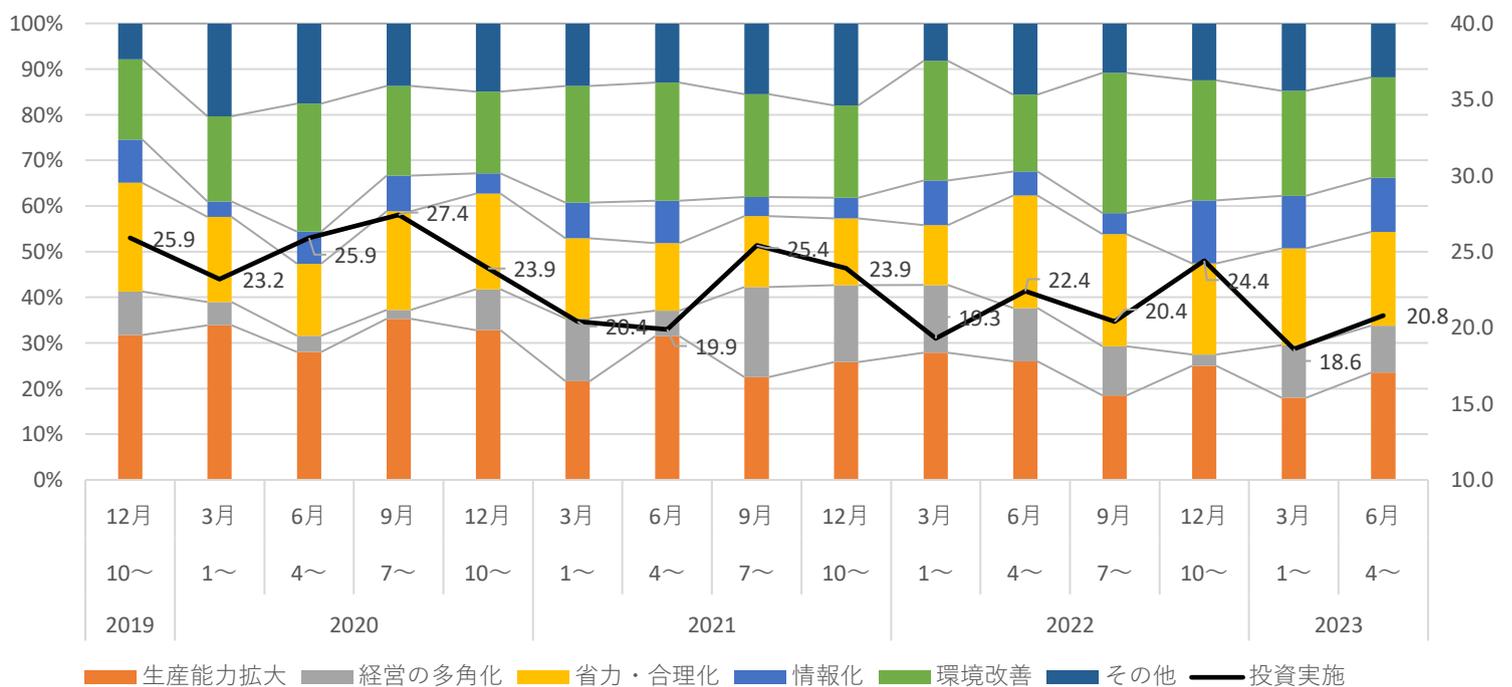


- (1) 10-12月の全産業の利益状況D. I. は前回比5.6ポイントの改善となっています。内訳をみると、製造業は22.0ポイント、非製造業は1.8ポイントの改善となっています。製造業の改善幅が大きくなっています。1-3月、4-6月の全産業の利益状況D. I. は1-3月に足踏みして4-6月に再び改善する見通しとなっています。これらについては非製造業、製造業とも同じ傾向にあります。

Ⅶ. 設備投資動向

	(%)														見込	予測
	2019		2020				2021				2022				2023	
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
投資実施	25.9	23.2	25.9	27.4	23.9	20.4	19.9	25.4	23.9	19.3	22.4	20.4	24.4	18.6	20.8	
投資せず	74.1	76.8	74.1	72.6	76.1	79.4	80.1	74.6	76.1	80.7	77.6	79.6	75.6	81.4	79.2	

															見込	予測
	2019		2020				2021				2022				2023	
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
生産能力拡大	31.7	33.9	28.1	35.3	32.8	21.6	31.5	22.5	25.8	27.9	26.0	18.5	25.0	18.0	23.5	
経営の多角化	9.5	5.1	3.5	2.0	9.0	13.7	5.6	19.7	16.8	14.8	11.7	10.8	2.5	11.5	10.3	
省力・合理化	23.8	18.6	15.8	21.6	20.9	17.6	14.8	15.5	14.6	13.1	24.7	24.6	20.0	21.3	20.6	
情報化	9.5	3.4	7.0	7.8	4.5	7.8	9.3	4.2	4.5	9.8	5.2	4.6	13.8	11.5	11.8	
環境改善	17.5	18.6	28.1	19.6	17.9	25.5	25.9	22.5	20.2	26.2	16.9	30.8	26.3	23.0	22.1	
その他	7.9	20.3	17.5	13.7	14.9	13.7	13.0	15.5	17.9	8.2	15.6	10.8	12.5	14.8	11.8	

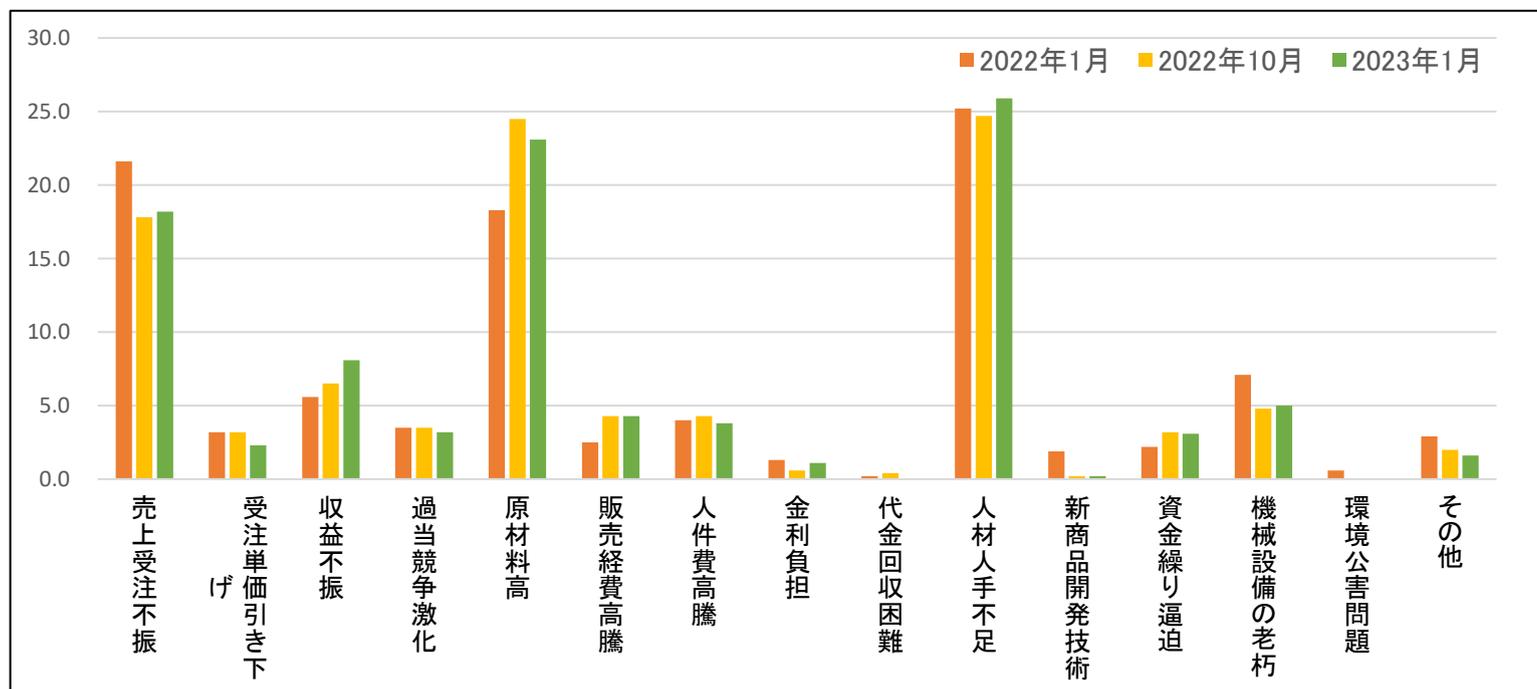


- (1) 設備投資を実施した企業は24.4%となり、前回比4.0ポイント上昇しています。設備投資を実施した目的については、「情報化」が13.8%と前回比9.2%上昇し、次いで「生産能力拡大」が25.0%と6.5%上昇しています。一方、前回調査で10.8%であった「経営の多角化」については2.5%と8.3ポイントのマイナスとなっています。

VII. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	2022年1月 (前年同月)	2022年10月 (前回)	2023年1月 (今回)		前回比増減	
			(うち製造業)	(うち非製造業)		
売上受注不振	21.6	17.8	18.2	11.5	19.6	0.4
受注単価引き下げ	3.2	3.2	2.3	0.0	2.8	▲ 0.9
収益不振	5.6	6.5	8.1	9.4	7.8	1.6
過当競争激化	3.5	3.5	3.2	1.0	3.7	▲ 0.3
原材料高	18.3	24.5	23.1	30.2	21.6	▲ 1.4
販売経費高騰	2.5	4.3	4.3	5.2	4.1	0.0
人件費高騰	4.0	4.3	3.8	4.2	3.7	▲ 0.5
金利負担	1.3	0.6	1.1	1.0	1.1	0.5
代金回収困難	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	▲ 0.4
人材人手不足	25.2	24.7	25.9	27.1	25.7	1.2
新商品開発技術	1.9	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0
資金繰り逼迫	2.2	3.2	3.1	2.1	3.3	▲ 0.1
機械設備の老朽	7.1	4.8	5.0	6.3	4.8	0.2
環境公害問題	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.9	2.0	1.6	2.1	1.5	▲ 0.4



- (1) 当面の経営上の問題点として「人材人手不足」が最も多くなっており、25.9%となっています。対前年比ではプラス0.7ポイント、対前回比ではプラス1.2ポイントと高止まりしています。
- (2) 次いで多い「原材料高」については23.1%で、対前回比マイナス1.4ポイントとなったものの依然高い水準にあります。「売上受注不振」については18.2%で、前回比プラス0.4ポイントで推移しています。

富山県内の中小企業の現在の業況とDXへの取組状況について

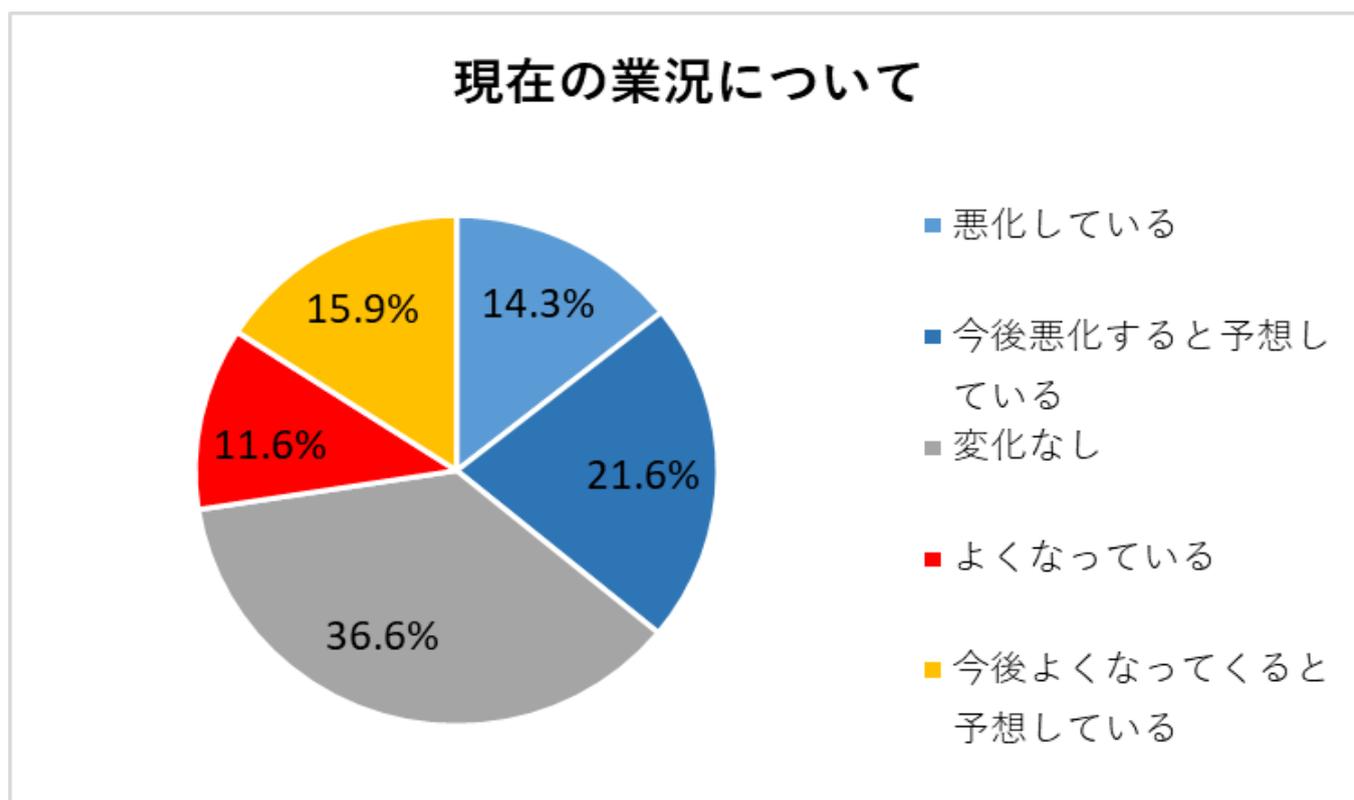
回答企業数	328社(うち、製造業106社、非製造業222社)
調査企業数	646
調査時期	2023年1月
調査方法	インターネットによる当行取引先へのアンケート実施(中小企業動向調査と同時に実施)

「現在の業況等に関するアンケート」からは、「売上減少・受注不振」による要因が業況悪化の上位となっています。ついで「原材料・仕入価格の上昇」を業況悪化要因との回答が多くなっており、ウクライナ情勢、新型コロナ流行による中国のロックダウン、円安進行等の影響による原材料・仕入価格が上昇しているものと思われます。原材料・仕入価格の上昇の対策として販売価格の転嫁に企業努力している様子が伺えます。また、原材料・仕入価格の上昇幅を販売価格に転嫁しきれずに結果として業況悪化に繋がっている企業も多いと推測されます。

「DX取組アンケート」からは、7割以上の企業が「必要」「ある程度必要」と回答している一方、既に取組みしている企業は2割程度と回答しており、今後の取組を課題としている状況です。取組内容については、「インボイス対応」「電子帳票保存への対応」がともに5割程度と多く、法対応の取組のために実施や今後検討している企業が多い様子が伺えます。

現在の業況等に関するアンケート

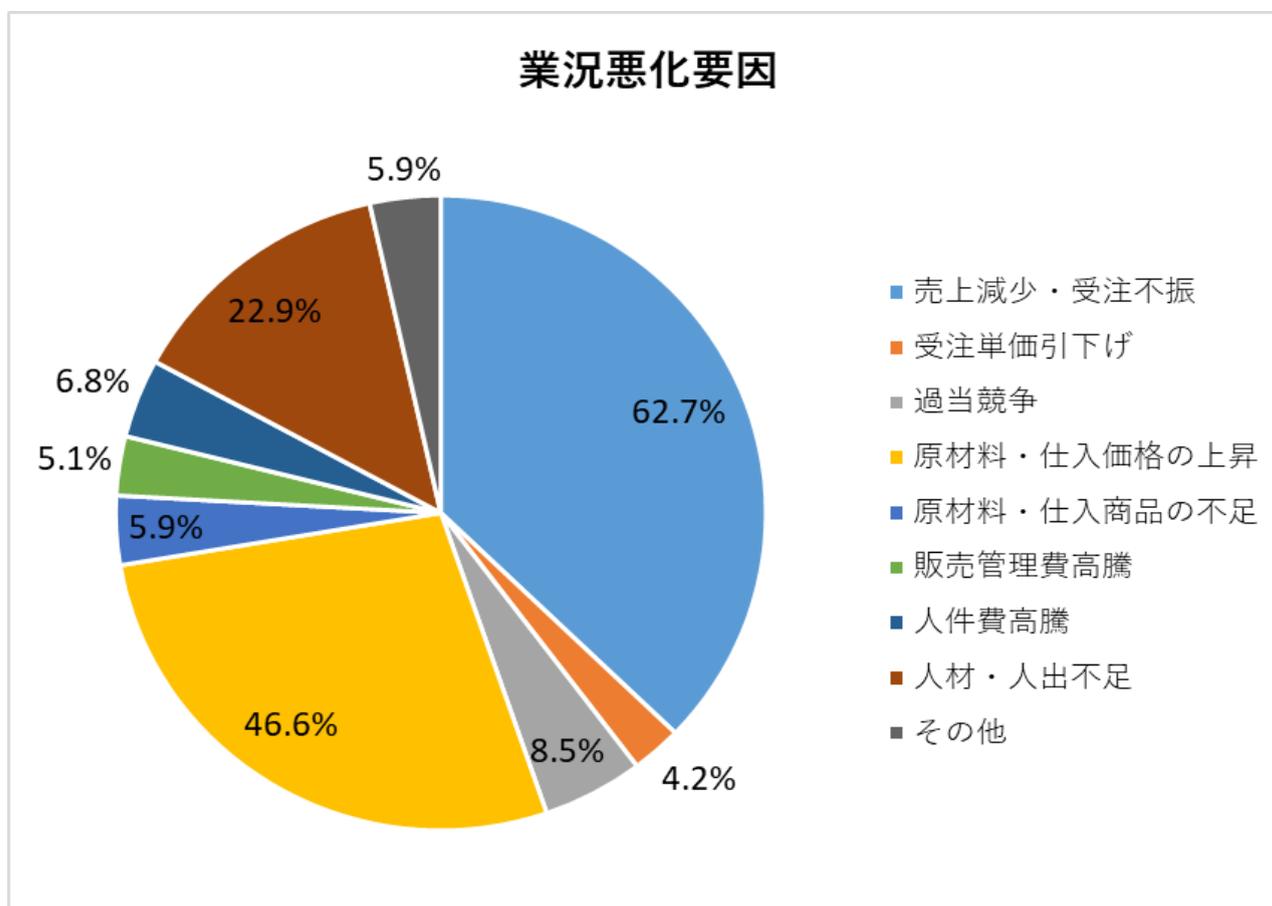
設問1：現在の業況について教えてください



「変化なし」と答えた企業が最も多く36.6%となっています。ついで多いのが「今後悪化すると予想している」が21.6%「悪化している」が14.3%となっており、全体の35.9%が悪化、今後悪化するとの回答となっています。

設問2：悪化の要因はなんですか

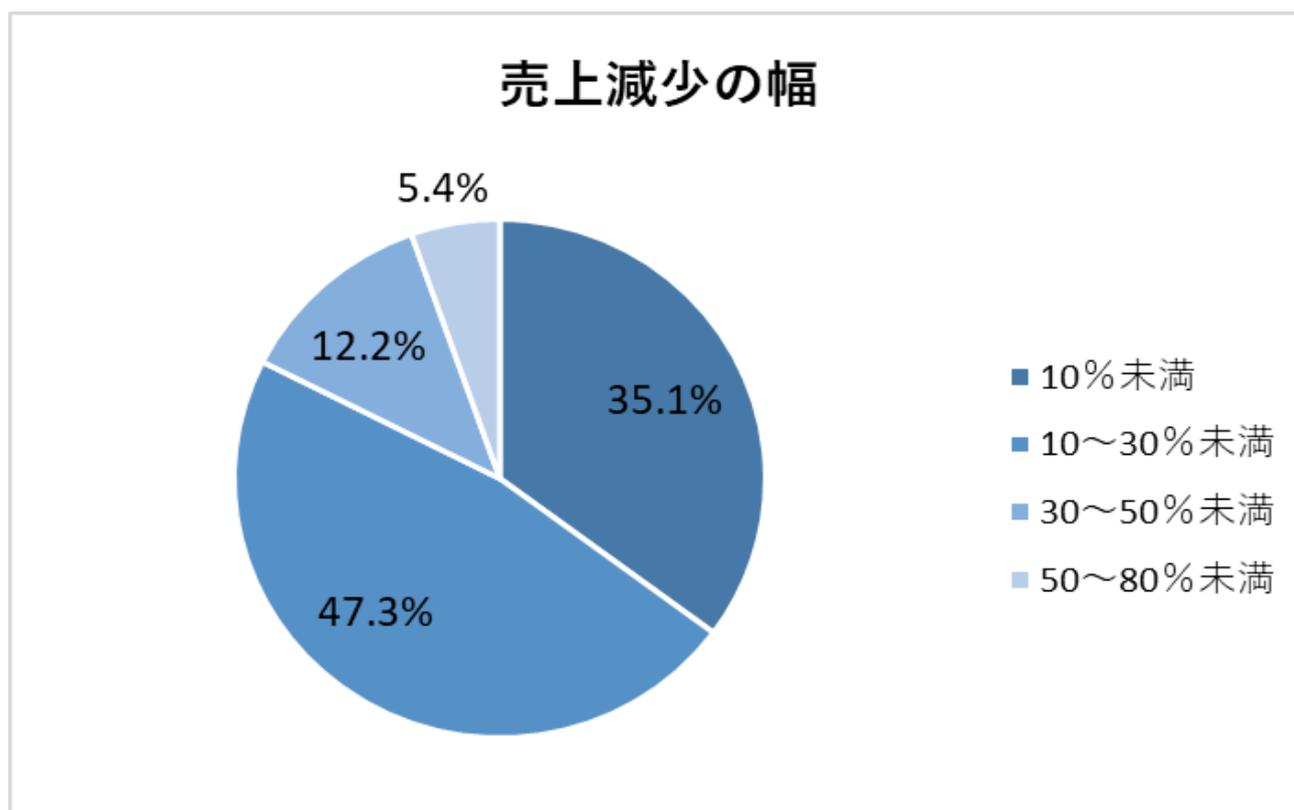
※設問1で「悪化している」、「今後悪化すると予想している」と回答された方のみ回答(複数回答可)



「売上減少・受注不振」と答えた企業が最も多く、62.7%となっています。ついで多いのが「仕入価格の上昇」で46.6%。「人材・人手不足」で22.9%となっています。

設問3：売上(受注)の減少幅はどれくらいですか

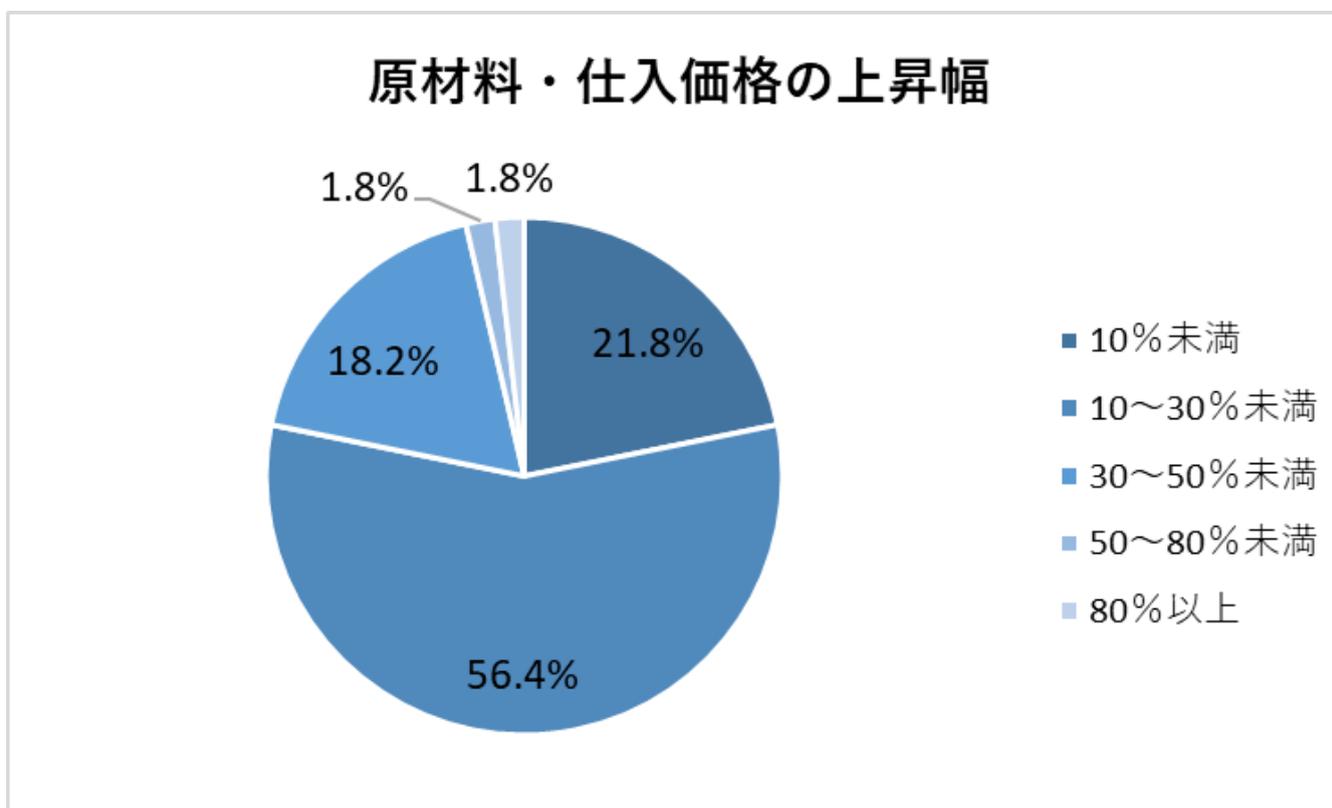
※設問2で「売上減少・受注不振」と回答された方のみ回答



「10～30%未満」と答えた企業が最も多く47.3%となっています。ついで多いのが「10%未満」で35.1%となっています。

設問4：原材料・仕入価格の上昇はどのくらいですか

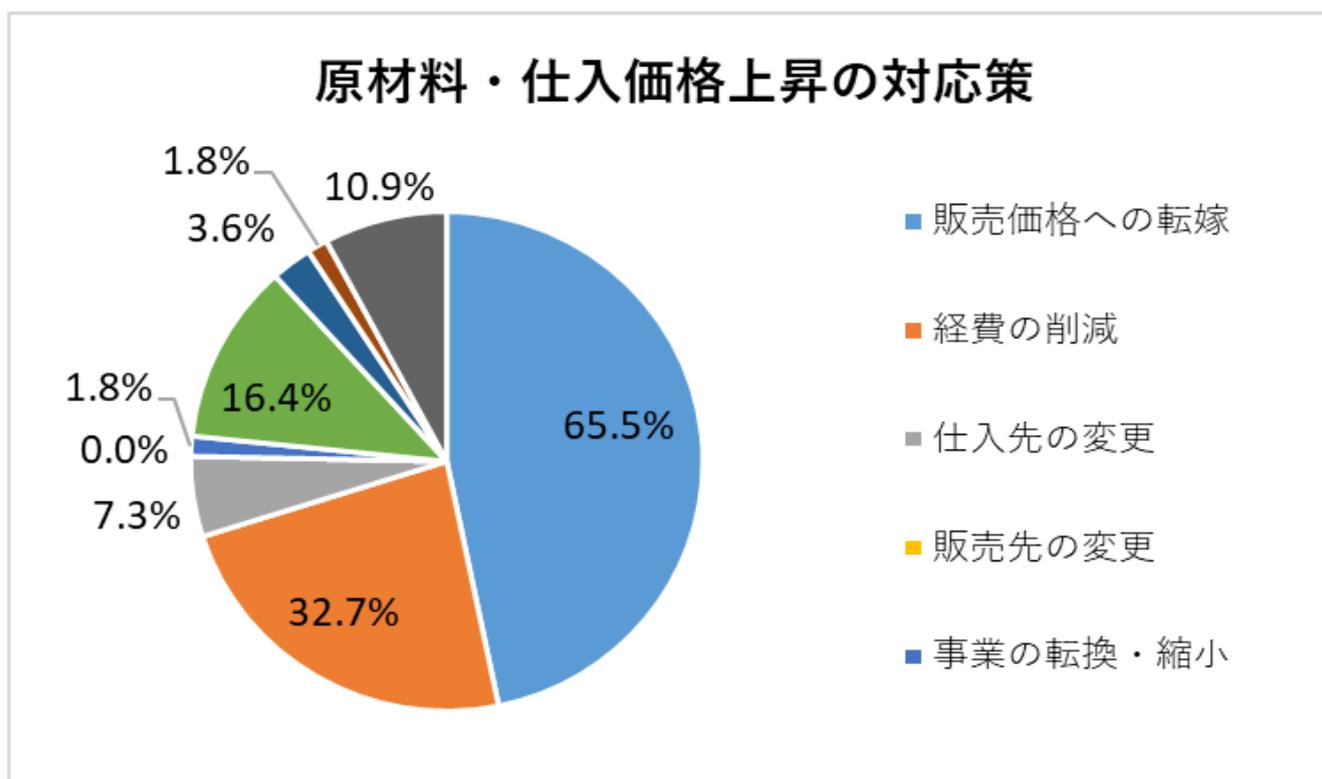
※設問2で「原材料・仕入価格の上昇」と回答された方のみ回答



「10~30%未満」と答えた企業が最も多く56.4%となっています。ついで多いのが「10%未満」21.8%、「30~50%未満」18.2%となっています。

設問5：原材料・仕入価格上昇の対応策としてどのようなことをしましたか

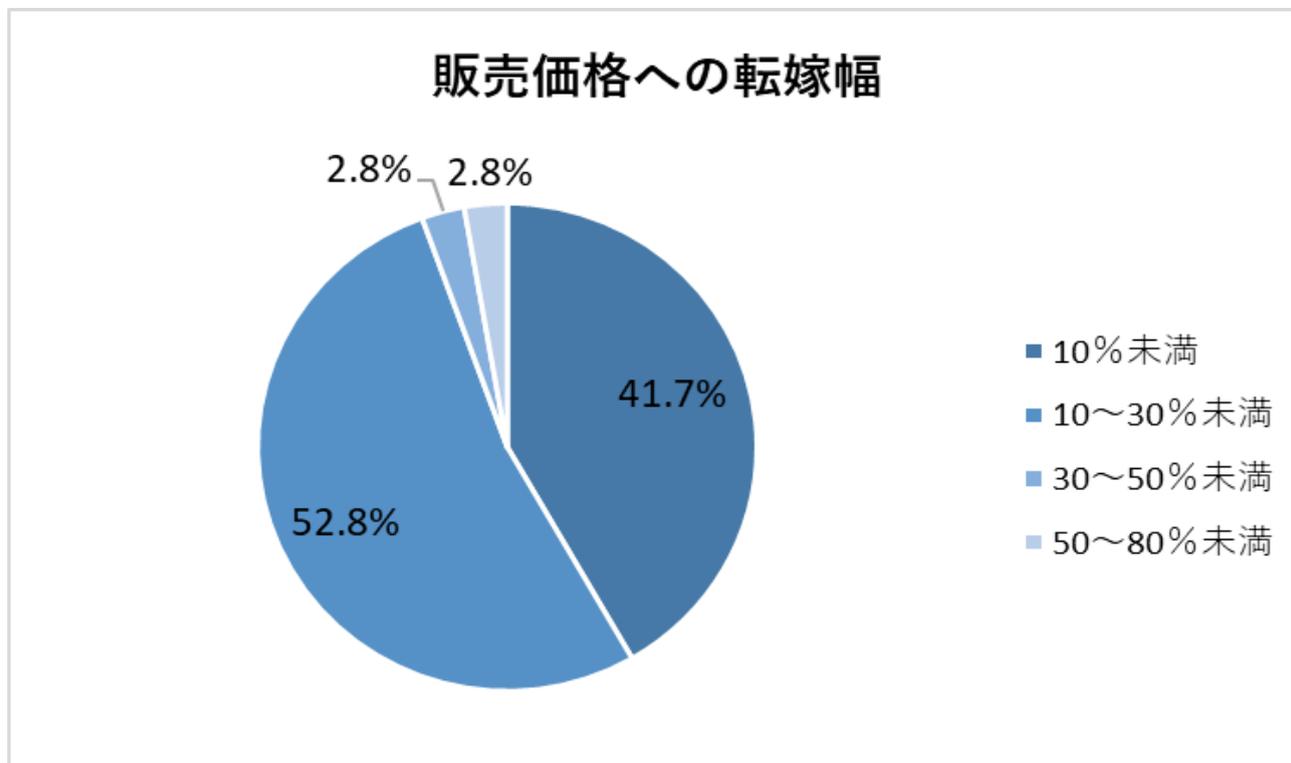
※設問2で「原材料・仕入価格の上昇」と回答された方のみ回答(複数回答可)



「販売価格への転嫁」と答えた企業が最も多く65.5%となっています。ついで多いのが「経費の削減」で32.7%となっています。

設問6：どれくらい価格転嫁されましたか

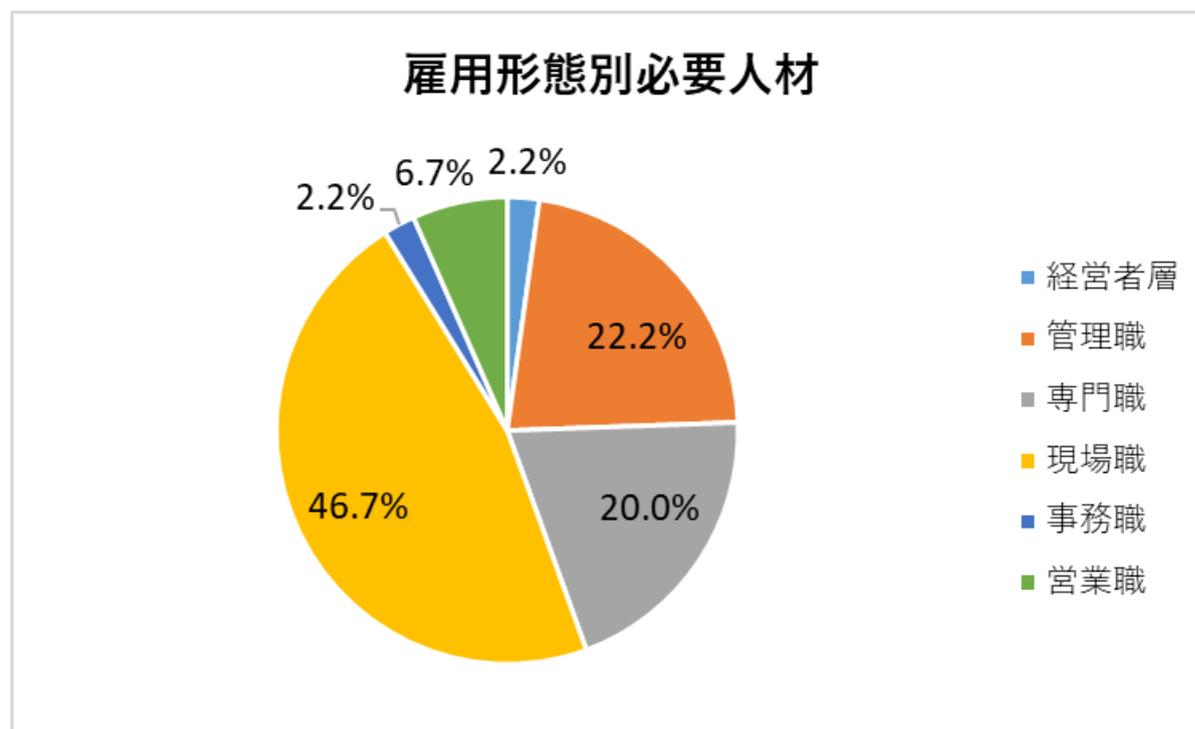
※設問5で「販売価格への転嫁」と回答された方のみ回答



「10~30%未満」が最も多く52.8%となっています。ついで多いのが「10%未満」で41.7%となっています。価格転嫁幅はこの2項目でほとんどを占めます。

設問7：どのような雇用形態の人材・人手が不足していますか

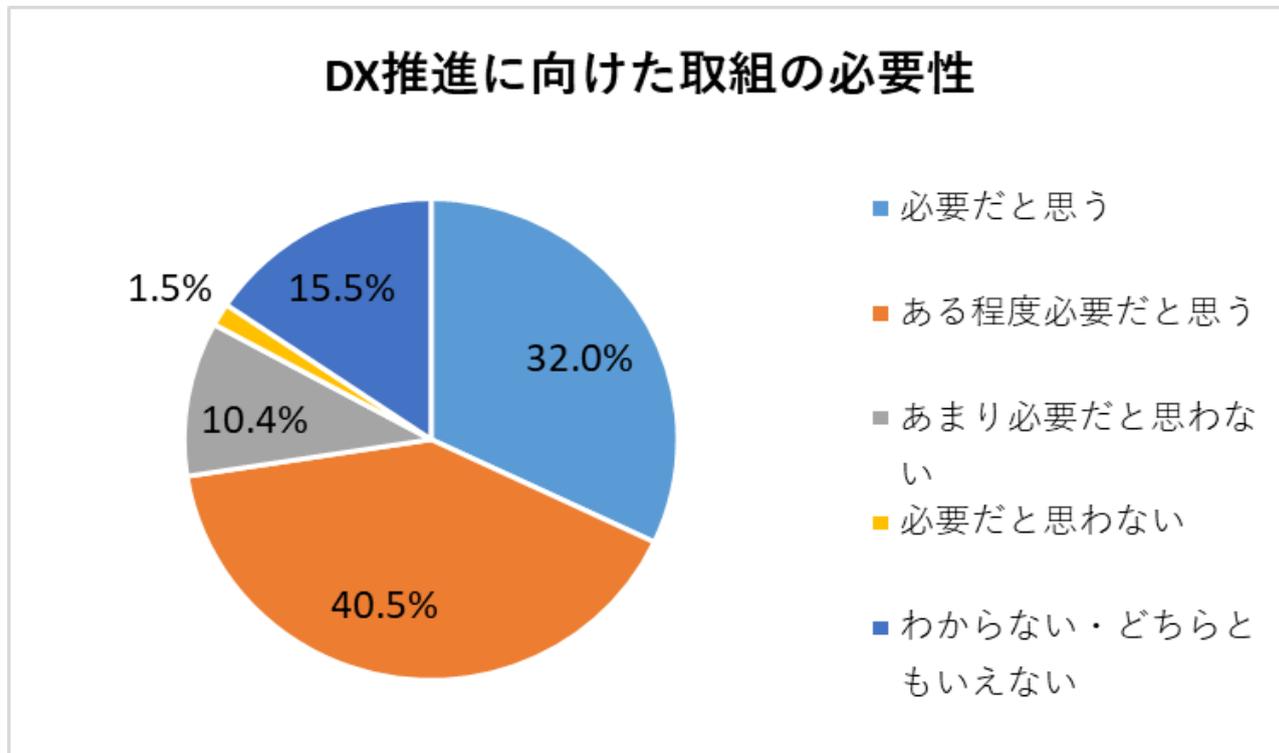
※設問1で「人材・人手不足」と回答された方のみ回答



不足している人材・人手として「現場職」が最も多く46.7%と半数近くを占めています。ついで「管理職」が22.2%、「専門職」が20.0%となっています。

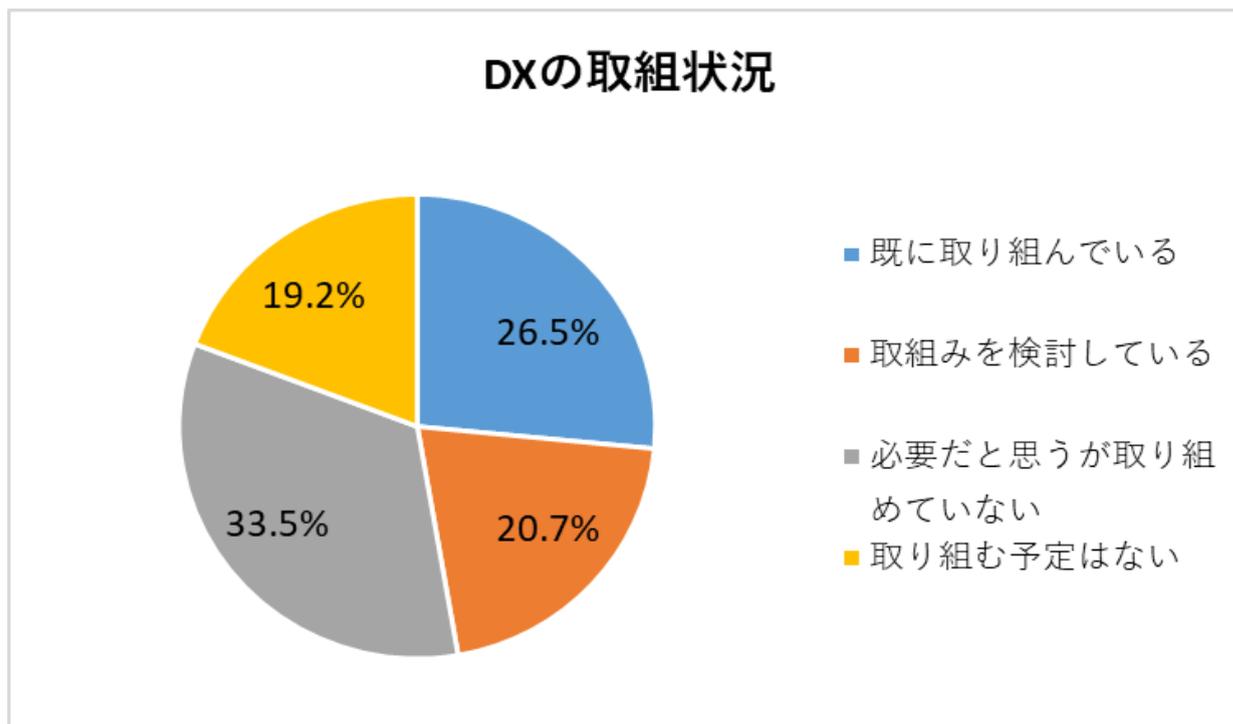
DXへの取組状況について

設問8 : DX推進に向けた取組みについて必要だと思いますか



「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」の合計が72.5%であり、必要があるという認識は7割超を占めます

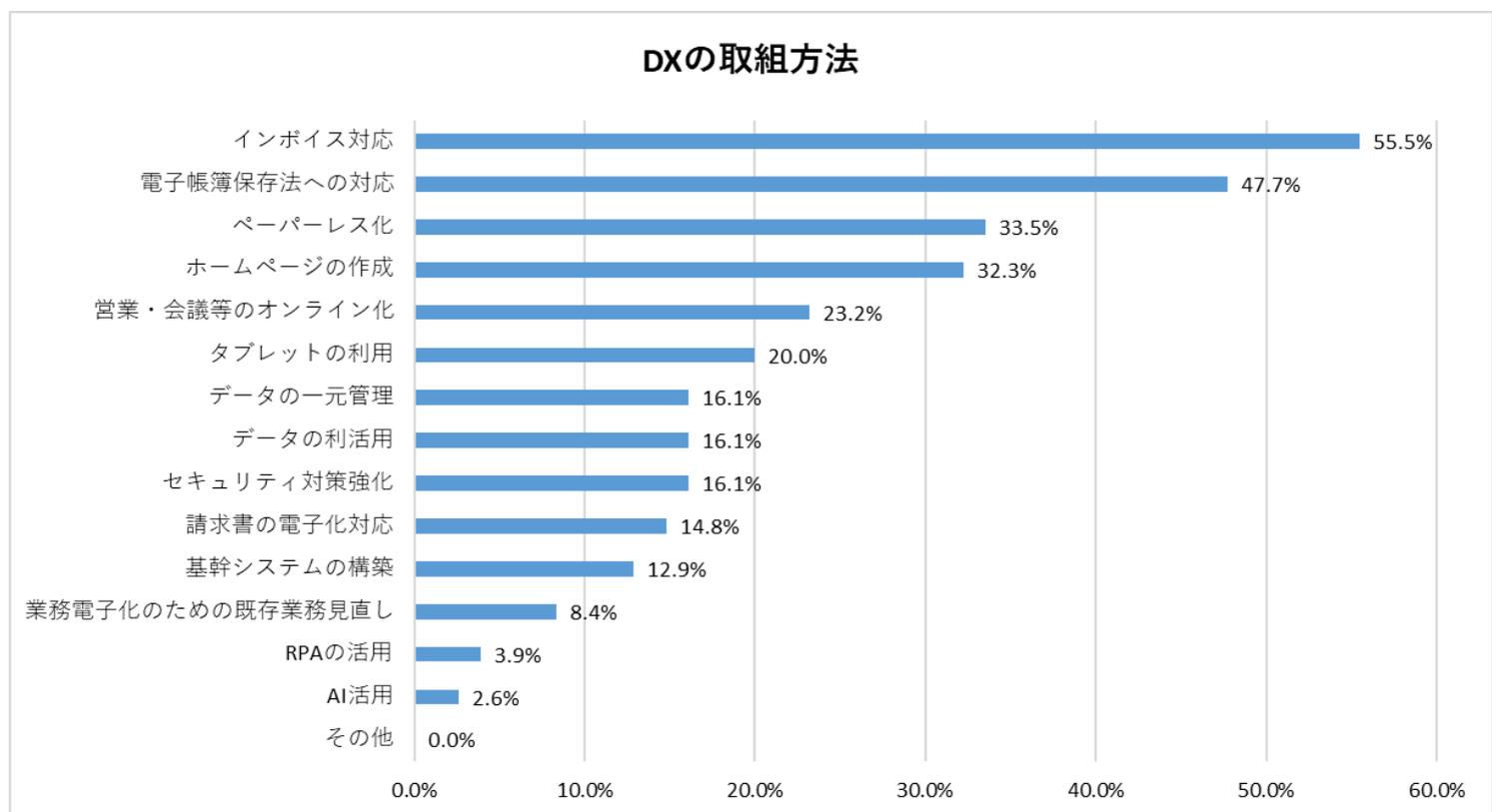
設問9 : DXの取組状況について



必要性が7割超で認められるのに対して「既に取り組んでいる」とする先は26.5%を占めるに留まります。実際の取組みに及んでいる先は依然として低い水準です。

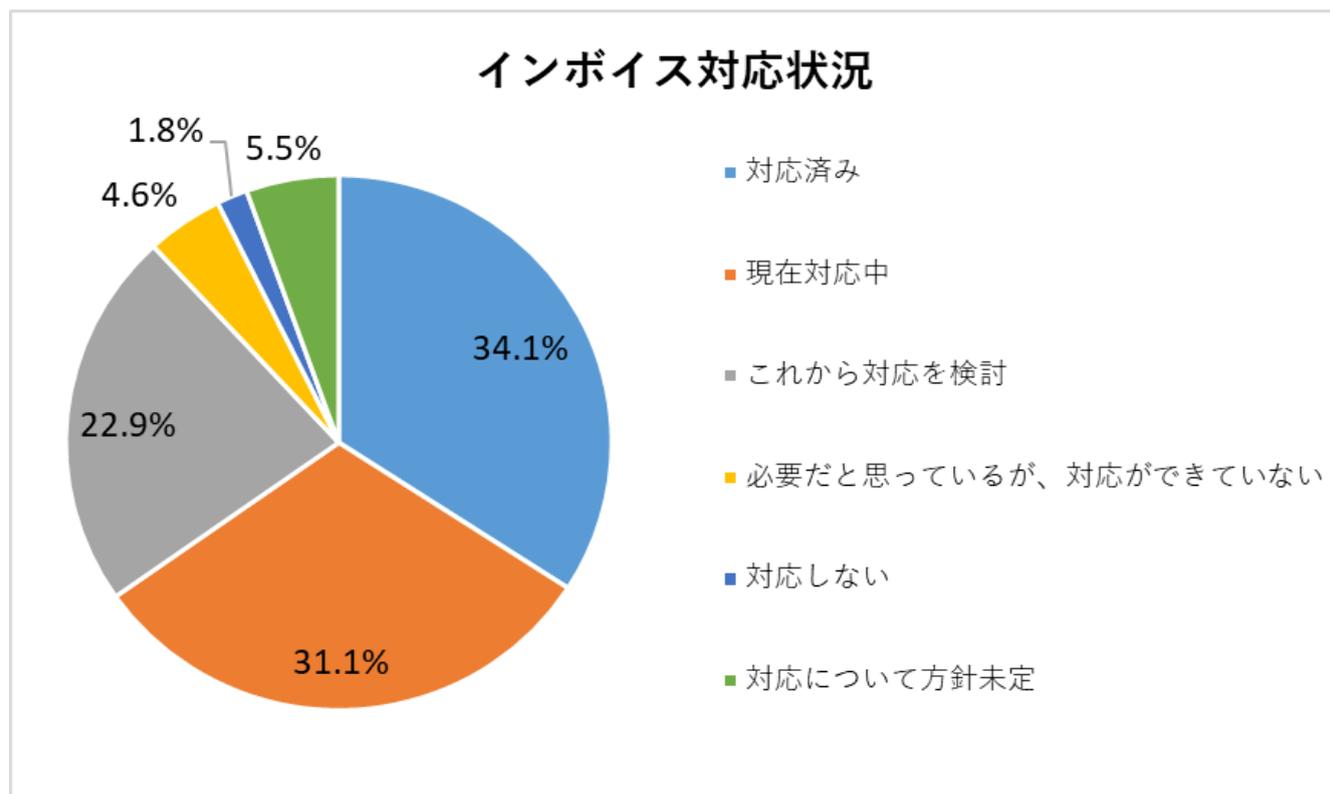
設問10 : DXのためにどのような取組を実施、もしくは検討していますか

※設問9で「既に取り組んでいる」、「取組を検討している」と回答した方のみ回答(複数回答可)



取組方法は多岐に亘ります。このうち、突出して多いのはインボイスの対応と電子帳簿保存法への対応であり、続いてペーパーレス化、ホームページの作成が続きます。

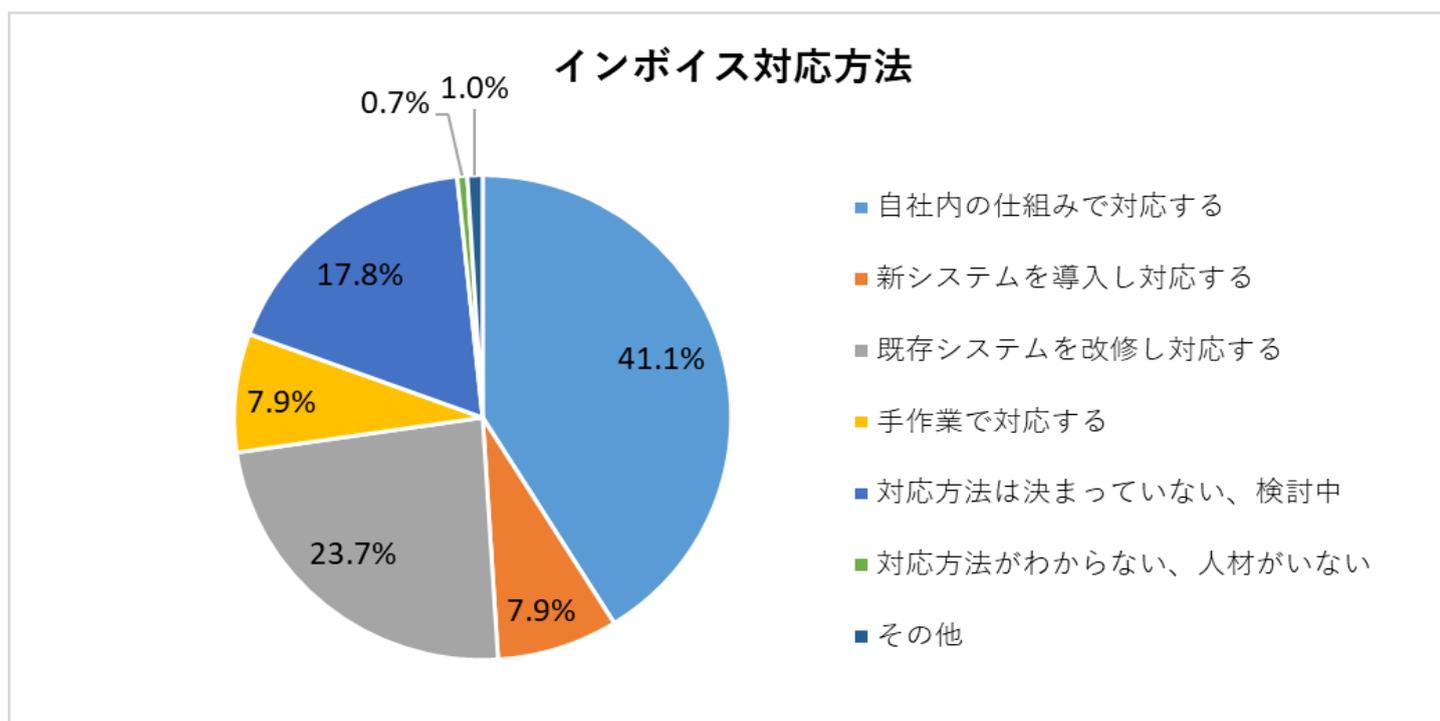
設問11 : インボイス要件を満たした請求書発行について教えてください



「対応済み」「現在対応中」の合計が65.2%となっています。「これから対応を検討」が22.9%あり、インボイスについては8割以上の企業が必要性を感じていると思われます。

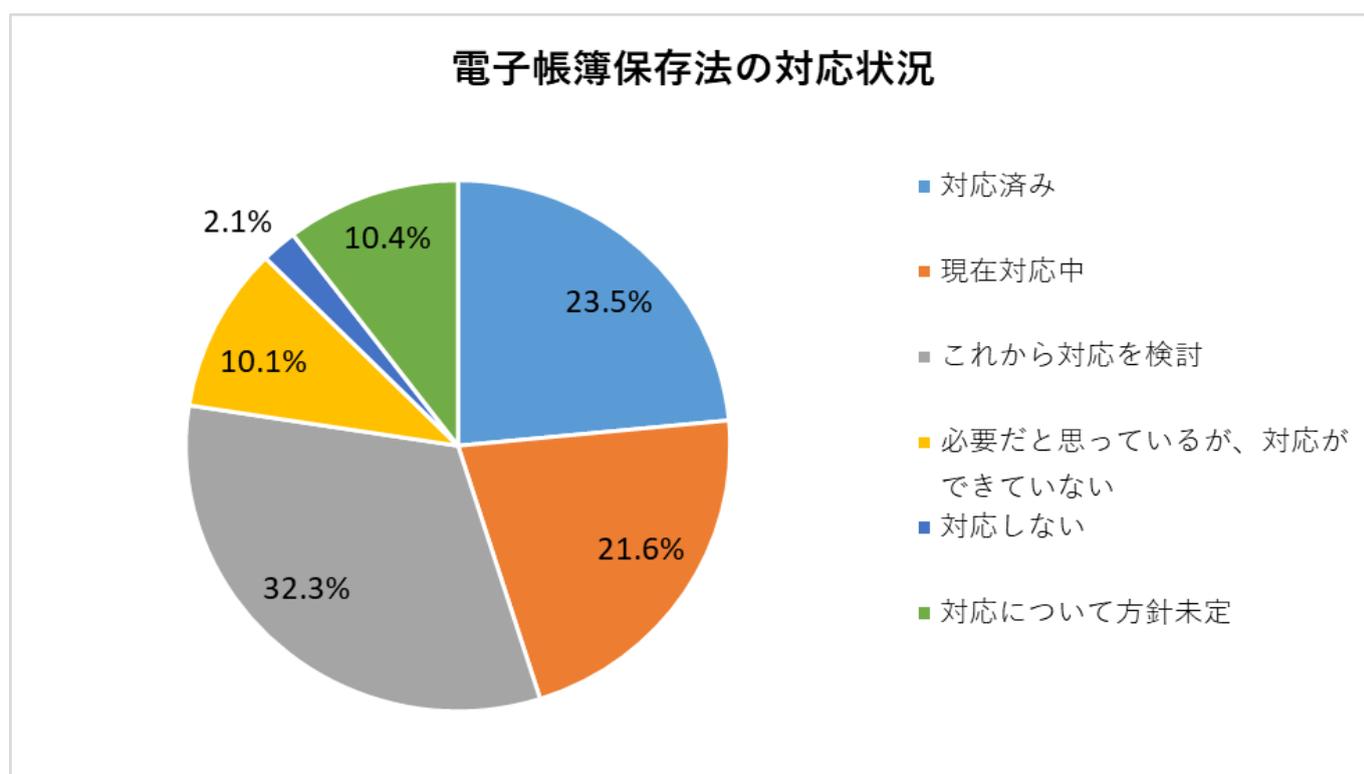
設問12：インボイス制度への具体的な対応方法を教えてください

※設問11で「対応済み」、「現在対応中」、「これから対応を検討」、「必要だと思っているが、対応できていない」と回答した方のみ回答



「自社内の仕組みで対応する」が41.1%を占め、「既存システムを改修し対応する」が23.7%となっています。一方で、「対応方法が決まっていない、検討中」が17.8%となっています。

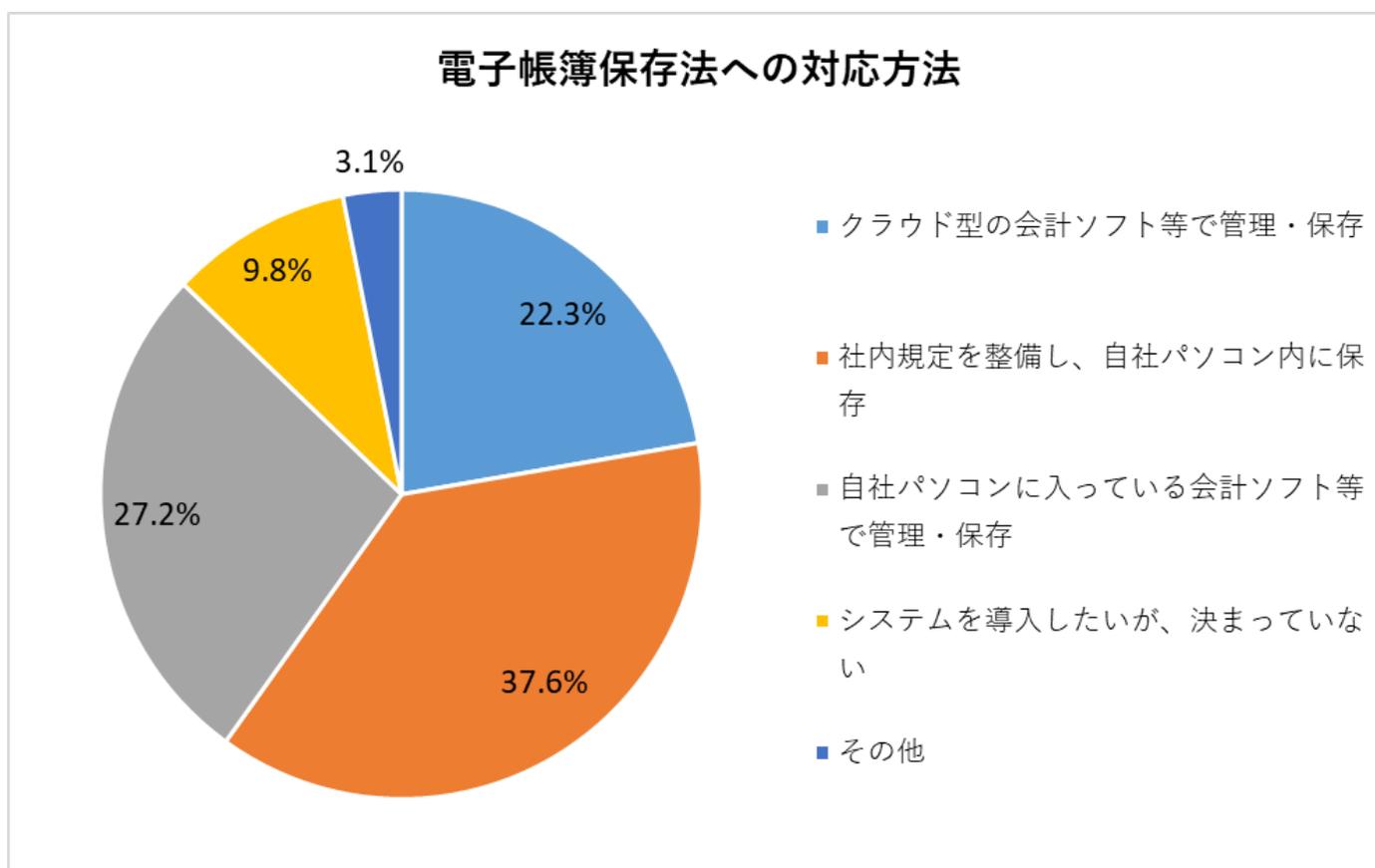
設問13：電子帳簿保存法の対応について教えてください



「対応済み」が23.5%であり、また「現在対応中」が21.6%となっています。一方で「これから対応を検討」が32.3%、「必要だと思っているが、対応ができていない」が10.1%となっています。

設問14：電子帳簿保存法の具体的な対応方法について教えてください

※設問13で「対応済み」、「現在対応中」、「これから対応を検討」、「必要だと思っているが、対応できていない」と回答した方のみ回答

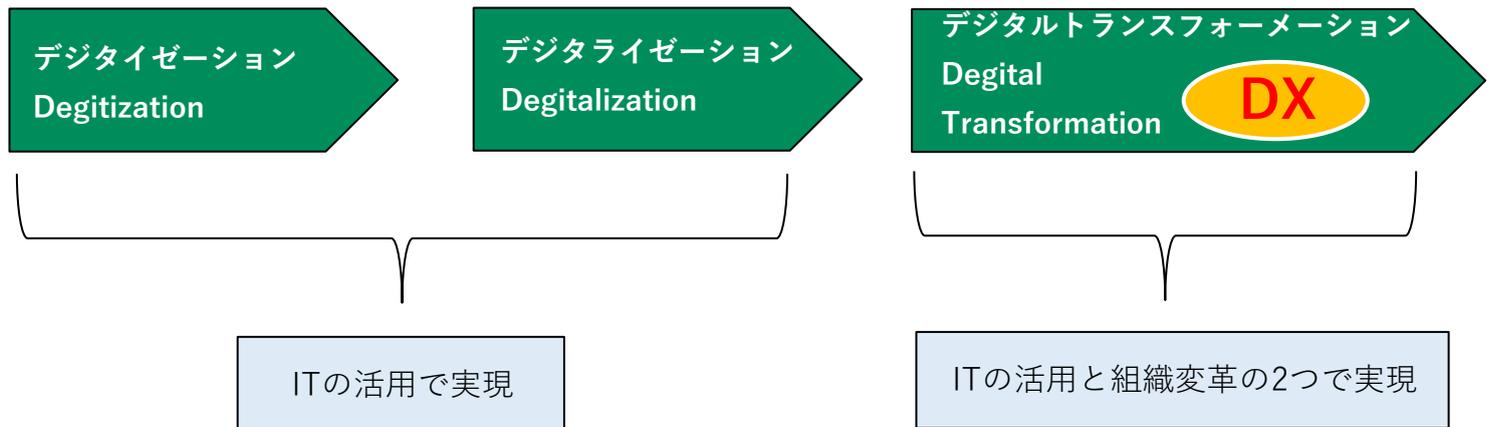


「クラウド型の会計ソフト等で管理・保存」が22.3%、「自社パソコンに入っている会計ソフト等で管理・保存」が27.2%、「社内規定を整備し、自社パソコン内に保存」が37.6%となっています。

今回のアンケートでは、DX推進に向けた取組の必要性を感じていらっしゃるお客様は約7割「取組を検討している」「必要だと思うが取り組めていない」と回答されたお客様は約半数いらっしゃいました。取組みの内容としては、「インボイス対応」「電子帳簿保存法への対応」が圧倒的に多く、法対応のために取り組まざるを得ないため、取り組んでいらっしゃるお客様が少なくないという結果が浮き彫りになりました。それでも、本年10月よりスタートするインボイス制度には約3割、来年1月よりスタートする改正電子帳簿保存法には、約半数のお客様がまだ対応出来ていない状況です。当行では、昨年6月と7月に両制度についての解説を、オンラインセミナーで開催いたしました。今後、具体的にITツールを活用し、どのように対応していけばよいかをご紹介しますイベントを開催予定です。

そもそもDXとは何を指すのでしょうか？

最近はどこでも「DX」とよく聞きます。しかし、「IT」や「IoT」、「デジタルイゼーション」などアルファベットやカタカナがたくさん溢れており、違いがよく分からないことはありませんか？このページでは、「DX(ディーエックス)」とはそもそもどんな意味なのかを解説します。



デジタルイゼーション

例えば、紙媒体で行っていた作業をデジタルで置き換えるなど、アナログデータをデジタル化することで業務改善の基礎をつくること。

デジタルイゼーション

デジタル化したデータを利活用し、ビジネスや業務の効率化をすることで、業務改善を図ること。「IT化」「デジタル化」とほぼ同じ。

デジタルトランスフォーメーション

上記の2点を活用して改革（新規事業や業務改革）を具現化すること。そのためにはIT技術の活用だけでなく、組織から人事考課等までの会社全体の改革が伴う。

したがって、DXを進めていくためには、①業務改善ではなく、業務改革をするための手段として、事業や業態の「改革」を実現していくこと、②既存企業がデジタル技術を活用して自ら変身・進化していくことが肝要です。

※経済産業省「『DX推進指標』とそのガイダンス」より

ITソリューションフェア2023
～バックオフィスから始めるDX～

開催日 2023年3月7日(火)
開催時間 10:00～17:00
開催場所 ファーストバンクキラリホール
(TOYAMAキラリ9F)
富山市西町5番1号

参加無料

※富山第一銀行とお取引のないお客様もご参加いただけます。
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を講じながら実施します。
マスクの着用・検温・手指の消毒など感染症予防対策にご協力をお願いします。

メモ

中小企業のお悩みに効く!

 富山第一銀行

売上UP
どうすれば…

販路拡大
方法は…

人材育成
進まない…

後継者
決められない…

経営者の皆さま、一人でお悩み抱えていませんか。
地域に根ざしているからこそ力になれる
その思い富山第一銀行に聞かせてください。

 富山第一銀行 <https://www.first-bank.co.jp/business/>